

## 5-マンション防災の取り組み ～首都圏の事例紹介～

## ②「よこはま防災力向上マンション」の認定マンションの取り組み事例-1

後藤 浩志 (港北ファミリーハイツ防災委員会初代委員長、マンション地震対応支援協会)



2005年に輪番制の自治会が回ってきたとき、一番楽な役割のつもりで防災・防犯担当を選んだところ、地域防災拠点運営委員長を担当する事に。しかし、行っているうちに課題解決できることが面白くなり、輪番の任期終了後も委員会へ残った。その後、自宅マンションの防災委員会の立ち上げを総会で提案し、初代委員長に。2022年9月に横浜市から防災力向上マンションとして「ソフト+」に認定された。現在の活動：地域防災拠点運営委員会(委員長)、都筑区災害ボランティアネットワーク(会長) 資格：防災士、医療福祉連携士、博士(医療福祉経営学)

凡例 ① 所在地 ② 申請者 ③ 階数 ④ 住戸数 ⑤ タイプ

ソフト+認定

港北ファミリーハイツ

基本情報

- ① 都筑区茅ヶ崎南一丁目
- ② 港北ファミリーハイツ団地管理組合
- ③ 低層棟：地上3階  
高層棟：地上8～14階
- ④ 438戸
- ⑤ 既存・分譲(複数棟の団地)

中高年を元気にする  
ファミリーカフェ

中高年の方が、楽しみつつ脳と体を鍛えて老化を防止するためのカフェです。ぜひ皆様お気軽にご参加ください。

▲地域交流活動

## ソフト+認定の概要

## 【防災組織】

管理組合の下部組織として防災委員会を設置し、災害時は防災委員会が補佐する形で災害対策本部の体制を確保

## 【防災マニュアル】

感染症対策、外国籍の方や要配慮者、居住者以外への対応にも触れたマニュアルを作成

## 【防災訓練】

安否確認訓練とスマホを活用したクイズ形式の書面訓練(令和4年度)

## 【飲料水等の備蓄】

最低限7日分の食料、水、非常用トイレを各住戸で備蓄

## 【地域との協力体制】

近隣のマンション自治会で構成する地域防災拠点運営委員会の一員として地域防災拠点を運営

## 【地域との防災訓練】

地域防災拠点にて運営委員会として避難者受け入れ訓練等を実施(令和4年度)

## 【地域交流活動】

地域の中高年の方が楽しみながら老化防止するための集会「ファミリーカフェ」を毎月1回実施

今年も  
オンライン防災訓練

居住者なら誰でも参加できるよ

今年の訓練はスマホで参加

参加して防災用品をGET

曖昧な防災知識が整理できるよ

ファミリーに特化した問題だよ

▲スマホを活用した書面訓練のポスター

横浜市建築局住宅部住宅政策課ホームページよこはま防災力向上マンション認定一覧より  
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/sumai-kurashi/jutaku/sien/bouman20221031.html>

防災委員会は2008年の準備委員会を経て、2009年に正式に設立しました。委員会は管理組合の下部組織として、理事2人、自治会役員3人、専門委員3人の計8人で構成しています。理事と自治会役員は毎年変わり「伝播力」を、専門委員は複数年担当し「継続力」を合わせ持った組織になっています。「防災協力隊」には約20人が登録し、発災時に対策本部を協力する体制をとっています。

マニュアルは「居住者向け防災マニュアル」と「災害対策本部マニュアル」の2種類を作成し、災害対策本部用は訓練を行って検証し、必要に応じて更新を続けています。

東日本大震災で停電を経験し、トイレ対策として管理棟のトイレの一部を停電時でも使用できるようにし、災害用の井戸も設置しました。また、非常階段の電気消え、真っ暗の中で階段の上り下りを経験し、手すりや電池式のライトを各階に設置しました。

一方、防災にはコミュニティー形成が重要と考え、顔の見える関係づくりを目指し、住民同士の「交流・懇親会」を毎年実施をしています。

以上、これまでの取り組みから、マンションの防災力には、防災力と組織の継続性、そしてコミュニティー形成が必要と考えられています。